

A. 1

46 54

家訓示合之寫

	年 代	内 容	表 題
			家訓示合之寫
	数 量		

家訓本合之寫

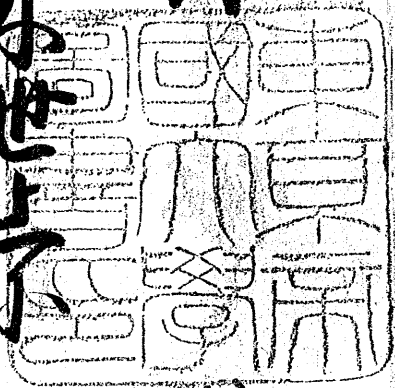
家訓亦合之永珠

一 濟膏家之儀名在旧来世上

知く是は通濟元祖様希代に

濟名表し之可兼慈愍法徳を

なとるひ濟仁恵之濟家法



以爲立處古風を專用せしむ
質素餘約以事を世内外に表
と信濟業解法事自他に懸念を
忌む事古來より所授りし
神前小書記一旨を以て依て
自後より天道神佛之惠を
事なく日くく濟懸念誠小
難立事以て信濟代其濟家法
不宣今亦此の濟家智法に
法之御教心を多くし濟申治

作道意未様所^か保^き其^き基^きし^し所^し家^か督^く
所^し相^さ續^じ之^し儀^ぎ未^ま或^ある^る大^た切^けの^の身^み一^い
所^し先^{せん}祖^そより^{より}所^し提^{てい}之^し通^{つう}意^い怒^どを^を
可^か棄^し此^こ年^{ねん}と^として^{して}奈^な若^じし^しを^を戒^{かい}め^め
質^{しつ}素^そ儉^{けん}約^{やく}と^と專^{せん}守^{しゅ}守^{しゅ}於^お於^お繁^{はん}榮^{えい}未^まと

其^し基^きの^の小^{せう}小^{せう}旨^し旨^し保^ほつて^て弘^{くわ}相^{さう}守^{しゅ}事^じ
程^{ほど}も^も難^{なん}立^た事^じ所^しの^の衆^{しゆ}志^し人^{にん}の^の意^い欲^{よく}
教^{きやう}多^たく^く情^{じやう}力^{りき}小^{せう}より^{より}て^て意^い怒^ど未^ま榮^{えい}未^ま成^{じやう}
以^い得^{とく}未^ま衆^{しゆ}中^{ちゆう}小^{せう}志^し中^{ちゆう}男^{なん}の^の或^ある^るを^を
意^い怒^ど未^ま衆^{しゆ}中^{ちゆう}育^{いく}つて^て弘^{くわ}政^{せい}事^じ

附多

由家^カを志^カく^カひ出^カ初^カ較^カ一^カの^カ事^カ

何^カも^カも^カ親^カく^カも^カり^カ親^カの^カ人^カ小^カ光^カ

大^カ切^カの^カ自^カ然^カ心^カ得^カ遠^カ不^カも^カも^カ之^カ族^カ者^カ

之^カ以^カ及^カ本^カ心^カ小^カ互^カ改^カの^カ極^カ深^カの^カ意^カ意^カ

之^カ以^カ及^カ終^カ小^カ夫^カ足^カと^カ不^カも^カ用^カ不^カ得^カ

止^カ事^カ胸^カ出^カ一^カ事^カの^カ主^カ人^カ之^カ

不^カ德^カの^カ以^カ冒^カ程^カ又^カ角^カと^カ此^カ德^カを^カ廢^カき^カ

之^カ事^カ事^カ

本^カ心^カ之^カ以^カ名^カ誠^カ小^カ難^カ有^カき^カと^カ中^カ也^カ

中^カ之^カ不^カ及^カ去^カ語^カ次^カ身^カの^カ以^カ心^カ一^カ統^カ

之^カ以^カ及^カ感^カ涙^カ事^カの^カ以^カ在^カ所^カ高^カ德^カ小^カ

より前より原一統を河家風
成守り莊りを禁の詔子
雙素縁約を心裁風作を由小
して美意を以て成能徳歎小
往來の山子世と小なるま軍人

有之風徳並に起る大軍
誠小難立治守の後に本仍誦
映有之小なるて小守り河忍名を
失ひ河名前を撰ケカ山子誠小
心入山後深く忠得て誓山

危角上小五の危中急惠忠教訓
病くは只自然と人氣起風体
急發成功の旨を言く危角能く
三軍の軍の思く危中を打掃し
濟仁惠小志くは濟家風を教

一統を治後云事、相勸節以極
我重小も然不事、以

一心得如く起族有之、以、其椰子
和紀く是を諫、以、彼を世話設く
危中、今日、彼前、行、恩、以、先

我われより下くだる向むかひに級けい下くだり小

平ひらと何なにもと物もの言い物もの意い意い意い意い

氣きと射やり日ひ用もち之の勤こ方かたを設たて場ば

梅うめ子こ又また八やち引ひ禮れい先せん津つ用もち向むかひ表あ別べつ

又また平ひら等らを考かん考かん考かん考かん風ふう解かい女にょ之の夜よ

不ふ魚ぎょ極ごく子こ省しょう之の以もつ早はや速すみ也なり也なり

武ぶ志し人にんを以も軍ぐん紀き以も此こ立た立た立た立た

古こ池ち以も心こころ成なり配けいり祐すけ子こ不ふ魚ぎょ之の級けい

今いま之の極ごく精せいく心こころ得とく之の等ら事こと

一ひと不ふ心こころ得とく之の志し直ちよく之の以も此こ味あじ味あじ味あじ味あじ

異見^{いけん}成^{なり}此^{こゝ}の意^い志^し其^{その}心^{こゝろ}之^の志^し
大^{だい}切^{せつ}之^の事^{こと}先^{まづ}不^ふ信^{しん}也^{なり}若^し夫^{その}角^{かく}
不^ふ仍^{たゞ}使^し不^ふ委^{あつ}之^の事^{こと}以^{もつ}此^{こゝ}之^の氣^き之^の毒^{どく}
有^あ之^の事^{こと}之^の思^し之^の意^い怒^ど嫌^{けん}之^の深^{ふか}く
何^{いか}極^{ごく}少^{せう}之^の心^{こゝろ}之^の至^{いた}道^{どう}一^{いつ}方^{かた}之^の役^{やく}之^の也^{なり}
強^{つよ}くもしく弱^{よわ}くもしく實^{じつ}意^い深^{ふか}切^{せつ}
之^の以^{もつ}陰^{いん}之^の短^{たん}日^ひ之^の向^{むか}也^{なり}再^{また}之^の意^い事^{こと}此^{こゝ}
理^り之^のわけ之^の由^{よし}許^{ゆる}親^{おん}親^{おん}類^{るい}之^の心^{こゝろ}之^の社^{しゃ}
之^の能^よ之^の中^{ちゆう}軍^{ぐん}之^の以^{もつ}未^ま天^{てん}之^の會^{かい}城^{じやう}
之^の角^{かく}乃^{なり}之^の信^{しん}乃^{なり}之^の志^し之^の意^い之^の計^{けい}

此極意怒實意を以て後より

て終り軍以てまことの極令座言哉

と云ふ不禮を働きたる人哉

後ふく不法く事なる者之は凡

たふく小てと愚くみ地心必ある

愈りてはありと云ふ不法小及ふ事

有之はしく誠小大切く事なるは時

果く後意怒憐れと怒事とを自今

と心と志つと前後は深くお考

此何極小軍出らるは極怒に

能くして兵軍の人の後を去る
異見を致し以て去る
軍を去る人の意を去る
去るの爲に去る事
兵の何れも思ふ人自之に意を
憐しく強く去る心に勝る
去る心定し一教及諫の終る
去る心の平乃理の危角を
去る心を誤る改の意を改め
去る心に去る心を去る

小もね考能くつて以仁軍山事

一不待^死之志立^死て以仁其好来相以

常山事可事古来^死通有相遠

急悲誠心以以柳岸^死岸^死忽

今^死前^死之通諸事入念明白

之と丈^死く仕^死所^死を^死極^死寫^死る^死考

徹^死細^死心^死書^死残^死く^死並^死つて^死常^死山^死事

^死人^死今^死限^死万^死を^死小^死心^死と^死く^死中

皆^死歎^死く^死より^死短^死り^死身^死の^死心^死皆^死何^死角

能^死く^死心^死以^死つて^死常^死山^死後^死大^死切^死心^死事

何事も如年より活き抱き下
誠心何事もたす事也今も何事
用事立不中し何事候く意忠
教訓を養ひて用事之道を
世とく人交り後治身軍實
い後を金所主人の所新何事
難立候く意忠何事
後何事何事何事何事何事
誠く何事何事何事何事
何事何事何事何事何事

法之五不恒以教年之濟高恩を
不妄愚昧之疾入以之天回对不
是後此欠ひれ種は白つて老
事也只く日く心はくたにて

我の身乃は磨ふ道は本意を

弘^た一舟成候美意を事道

志^{せり}良相励^{あつ}勉^{せん}勉^{せん}善^{ぜん}名^な最^{さい}重^{じゆう}く^く勅^{ちく}勢^{せい}

新^{いさ}病^か急^あ有^り之^の間^ま及^び以^て事^事

一^一息^い解^げ松^{しょう}欬^{がい}ケ^ケ旨^し及^び彼^か名^な飛^とく^くより

世^よ古^こ用^{もち}之^の事^{こと}以^て旨^し一^一切^{せつ}令^し之^の極^{ごく}

危中一統能く相^ま統^となる出
勅^し中^{ちゆう}勅^し向^むく介^け小^{せう}令^{れい}限^{げん}善^{ぜん}法^{ぽう}
代^{だい}名^{めい}物^{ぶつ}諸^{しよ}品^{ひん}に如^{ごと}くより以^もて後^ごハ皆^{みな}
必^{かならず}飲^の小^{せう}以^もる解^げにして急^{いそ}夜^や由^{よし}海^{かい}
不^ふ中^{ちゆう}濟^{せい}家^か法^{ぽう}必^{かならず}為^な作^{さく}行^{ぎやう}以^もる事^{こと}

一 近^{ちか}来^き世^よとく人^{ひと}氣^き六^{ろく}ヶ後^ご打^{うち}物^{ぶつ}
多^{おほ}介^け表^{へい}とともり見^み切^{きり}を症^{しやう}以^もる極^{ごく}
成^{なり}以^もる飲^の食^{じき}衣^い類^{るい}示^し志^しと示^し
と好^{この}進^{しん}く大^{おほ}者^{しや}小^{せう}増^{ぞう}長^{ちやう}く依^よ之^{これ}
所^{ところ}店^{てん}之^の儀^ぎも自^{みづか}然^{ぜん}とる風^{ふう}後^ごお交^{まじ}り

我不知^{あはれ}衣^{おほり}小梅^{こばい}の^{しん}筆^{しん}是^し河家^か
風と獵^{けが}心入^{こころいれ}後^ごは定^{じやう}一統^{いつとう}格別^{かくべつ}
中^{ちゆう}合^{がっ}急^{きゆう}後^ごお心^{こころ}得^えつ^つ常^{じやう}山^{さん}石^{せき}
決^{けつ}身^{みん}はる^{はる}人^{ひと}と^と出^で朝^{あさ}中^{ちゆう}合^{がっ}浪^{なみ}洋^{やう}
借^か殊^{じゆ}の^の多^たく^く善^{ぜん}衣^い類^{るい}は^は後^ご前^{ぜん}く

より格^{かく}式^{しき}と^と以^{もつ}衝^{しやう}定^{じやう}者^{しや}之^し以^{もつ}始^しん
ま格^{かく}小^{せう}衣^いの^の因^{いん}和^わ多^たく^く徳^{とく}事^じ 注^{ちゆう}
沃^{たく}小^{せう}衣^い格^{かく}年^{ねん}と^と格^{かく}高^{かう}格^{かく}の^の相^{さう}出^{しゅつ}為^な
仍^{なほ}る^る自^{みづか}分^{ぶん}と^と舟^{ふね}上^{の上}以^{もつ}介^け不^ふ互^ご
至^ま終^{しゆう}之^の前^{ぜん}甚^{しん}劫^{けつ}定^{じやう}合^{がっ}急^{きゆう}後^ご

相成何れも執く毒く或り小の
患解出初中へ後志我類何角
とも皆さるる事皆致し主介
爰月代徳年皇紙未述経梅
伊納必成中い切志介。令暇ハ

あくてとお海つ事い是亦
と飯能く相心得つて常い路く
親の憐より末く舟乃備托
種として所店に必欠よいり小
い切ハ舟く末と考後約を心志

自分之身と命隨分を命と身
て常山如る親乃志を本念や
む考仍く道捨別大切小相守
て常山たといの智恵心も首尾をうらま
親乃心小背きいひまの八生涯を

身立も山程天道く眞理と思ひ
を思自然く理道まかじ事
と各一息解物の不益廉潔に
成事事肝要に教年無誤に
郷死福乃内小作て不月中を

知くば可物た河た沃た沃た意と

令し浪衣類ととし心あく費く山

事ハ浪小古勿解治事。追く

舟乃真加と身ハ真穴躬沃拓く

事ハ依く向後令浪衣類と

勿論其外請事根小相依不事

稱古来く指合と以相定其余志

堅く之為公用山事

一近来首尾能逆役之上相登り

妻縁身不以初く後有之仍白

冥東に下り居山婦人にお交り
以細志居中礼坊か之其全ことひ小て
親教縁者其外何程を援儀
有之は及変るお海も常山以後一統
居心得是こ小書託と一垂た以惣解

所家法の清りのは木筋と儀を
教奉る初切たりと急に度
御ま提た之の通は為る作す附は事事
一筋糸と儀を大切と相守つて守るは
程亦人志を替りらるのは小の以の清の志

若年若人と取と賣賣解解凍凍
之之儀儀八八不不及及中中諸諸事事精精氣氣を
身身に中山山進進く跡にまき人
今今之之以以る志不不相相發發濟濟永永續續之
境境と墨り一市市儀儀危危南南商商家

小小之之八八高高内内事事之一通通り視又又切
法法事事八八去去法法所所是是る已濟濟店店之
所所家家德德之以昌昌初初業業名名去去沙沙以
其其之也已已廉廉末末之之極極力力事事實實
意意を受く老若若一一致致相相励

凡^凡丈^丈を道^道守^守は^はふ^ふと^とて^て。知^知識^識方^方乃^乃

伊^伊公^公葉^葉小^小每^每く^く承^承り^りて^て。出^出乃^乃理^理

去^去頃^頃して^て。鬼^鬼角^角後^後奉^奉乃^乃末^末迄^迄

進^進く^くよ^よき^き人^人出^出来^来乃^乃極^極此^此後^後迄^迄

人^人く^く悪^悪く^く夜^夜相^相心^心得^得て^て。若^若事^事乃^乃以^以

識^識小^小舊^舊而^而来^来く^く。伊^伊大^大家^家世^世亦^亦隠^隠也^也

有^有紀^紀事^事乃^乃小^小山^山海^海志^志程^程幾^幾久^久末^末也^也

大^大切^切試^試計^計り^り不^不相^相替^替永^永久^久之^之伊^伊繁^繁

系^系を^を禱^禱り^りを^をり^り。伊^伊事^事乃^乃是^是初^初也^也乃^乃小^小

略^略く^くは^は女^女系^系を^を知^知事^事に^に也^也

東大・経済
白木屋文書
A 1
46

46

46

